

平成22年2月22日

武蔵御嶽神社および御師家古文書調査について

【概要】

青梅市と法政大学が共同で実施してきた武蔵御嶽神社および御師家古文書調査の第2期調査が完了し、成果として、今回、調査報告書『武州御嶽山文書第4巻 ー金井家文書(4)ー』がまとまりました。

【内容】

- (1) 青梅市と法政大学との共同事業として予備調査と第1期、第2期調査の期間を含めると15年の年月をかけて実施してきました。
- (2) 第2期調査の完了に伴い、金井家文書の調査報告書が第4巻の刊行をもって終了し、片柳三郎家をはじめとする6軒の御師(おし)家(神職)の古文書目録が完成しました。
- (3) 法政大学は多摩キャンパスの開設とともに地域社会での文化的交流を促進することを目的に、高尾山薬王院文書や日野高幡不動文書の調査を実施してきましたが、御嶽山の調査は質、量ともにそれをはるかに上回る内容です。
- (4) 本調査には、法政大学や青梅市の専門の研究者だけでなく市内の古文書研究グループも参加しており、市民との協働事業としても位置づけられる意義深いものです。
- (5) 解読された内容の中で、特筆すべき事柄はいろいろありますが、その中で武蔵御嶽神社のご神宝を将軍に上覧したという記述があります。現在、国宝や国の重要文化財に指定されている赤糸威鎧(あかいとおどしよろい)、紫裾濃鎧(むらさきすそごよろい)、円文螺鈿鏡鞍(えんもんらでんかがみくら)などを8代将軍吉宗には2度、10代将軍家治にも1度上覧しています。
- (6) 国宝赤糸威鎧の複製品については青梅市が製作し郷土博物館に展示していますが、新市庁舎の完成を記念してホールに飾る予定です。
- (7) 講演会、展示会、古文書講座や観光イベントなどにおいてこの調査結果を広く紹介するなど、地域活性化にも活用していく方向です。

《 担当 社会教育部郷土博物館 》